



自主防だより

発行日 令和2年 3月 1日
 発行者 国分寺北部校区
 自主防災組織連絡協議会
 連絡先 ☎087-874-5805
 (国分寺北部コミュニティセンター)

防災訓練

自分の命は
自分で守る



秋晴れのもと10月20日(日)、550人の方々が避難訓練・防災訓練に参加し、ブロック毎に設定している一時避難場所で安否確認後、小学校体育館・教室で実地訓練を行い、防災・減災について体験しました。

中でも、今回初の試みで避難シミュレーション訓練(災害時の避難で起こる困ったことを疑似体験する訓練)を行いました。ブロックや電柱などが倒れてきたという設定の中、応急手当した負傷者を健常者が補助しながら障害物を除きながらゴールに向かって進みます。また、竹2本と毛布で作成した簡易担架は、5人1グループで進みますが最初はこの担架で大丈夫?という感じで乗った方も、竹が折れずにゴールまで行けてホッと、また、女性だけのグループでもキャーキャーと言いつつもゴールできていました。キャーキャーはご愛敬。実際こんな場面に直面したら、皆さんきっと緊張な面持ちで実力が発揮されるでしょう。

運動場では子供バケツリレーのあと、消防団によるポンプ車操法の披露があり、好奇心旺盛の子供たちは、消防団員のキビキビした動きに自然と一緒に走っている光景も見受けられました。

また、毎年ご協力いただいている、西村ジョイ・大同ガスでは、日ごろから備蓄しておきたい物や、家具固定に必要なものを展示、屋外では災害時に活躍する発電機や車中泊用のマットなども展示しました。

体育館では朝日段ボール提供の間仕切りや、簡易トイレ・ベットなど展示・組立など訓練があり、参加者は「へ〜、すごい〜、これは便利やなあ〜」の声が出ていました。

高松西警察署からはパトカーと白バイが出動。多くの方がパトカーや白バイに乗って記念写真を撮っていました。

ご協力いただいた各団体・企業の皆様心よりお礼申し上げます。

今年は、11月15日(日)に訓練を開催します。何回も繰り返し訓練を受けることにより知識の確認や技術を身体に叩き込むことが必要ですので、是非機会があれば必ず参加してください。

AED訓練

AEDは各コミュニティセンター等の公共施設、学校に設置されています。実際に心肺停止状態の方を見つけたら、先ず119番に連絡し、付近の救助者を呼び(AED確保)、迅速に適切な措置を施し命を救いましょう。



起震車体験

今年も起震車「ユスラスかがわ」が来ました。

起震車は「前後」「左右」「上下」に揺れ、震度2から7までの震度階級ごとの揺れのほか、「東日本大震災」、「熊本地震」といった過去の地震の揺れもリアルに再現できます。

体験者は、椅子から落ちないようにテーブルに必死にしがみついていた。この体験を通じて、ご自宅での家具固定について是非検討していただきたいです。



こうなる
前に対策



簡易間仕切り訓練

体育館ステージで朝日段ボールの方々に指導いただき、避難所運営に必須「簡易間仕切り訓練」を行いました。この間仕切りがあれば避難所になったときに家族単位でプライバシーに配慮した部屋作りができます。参加者からの質問が年々高度になっていることから、防災意識向上されています。写真は段ボールでできたベットです。ベットの下には収納用の引き出しもあります。みなさん興味津々でした。



防災グッズ展示

今年も西村ジョイ・大同ガスから防災・減災のグッズが多数展示されました。今回は、2社が展示した小型発電機。災害時の電力供給におすすめですが販売価格がちょっと高め、、、でも、携帯電話の充電などに便利です。



避難シミュレーション訓練

この訓練。地震発生時、一時避難場所や避難所へ行く際、家屋倒壊などによりがれき散乱、ブロック塀倒壊、電柱倒壊、横断障害物などがあるということを想定し、体育館内に段ボールや体操マット、跳び箱などを障害物に見立て2コースを作りました。このコースを、けがをした人は応急手当、簡易担架を作り負傷者を乗せ、歩けない人を車いすに乗せ障害物を避けながら、避難します。事前に消防署から指導を受けた地元消防団員が、応急手当では、足や手を骨折している人は傘やバンダナ等を使いながら固定、簡易担架は竹と毛布で作成し、その場であるものを使って負傷者を手当できるということがよく分かりました。



警察車両展示 交通安全啓発

普段乗れないパトカーや白バイ。子どもから大人まで満面の笑みで乗って楽しんでいました。昨年も県内では交通事故が多発しました。歩行者も運転者も各々が気を引き締めて交通事故を防止しましょう。



バケツリレー

PTA総出で2コースに分かれて行いました。



消防団操法訓練披露

日頃の訓練を披露。キビキビしている姿に子どもたちの目はキラキラしていました。右の写真の子ども。。。将来の有望消防団員！



炊き出し訓練

今年も婦人会・食生活改善推進協議会・生活研究グループのご協力をいただき、550人分の炊き出し訓練を行いました。ヌクヌクのカレー。美味しかったです。ご協力有難うございました。



地区防災計画(ちくぼうさいけいかく)



国分寺北部校区では、

- ①.国分寺北部地域防災マップ
- ②.国分寺北部コミュニティ継続計画
- ③.市指定7箇所の避難所運営マニュアル の3点で地区防災計画とします。



**地区防災計画での防災・減災対策は
何のためと言え「自分の大切な人の命を守る」事です。
そのためには日頃より地域特性、災害特性を知り、うまくかわしましょう。**

1.国分寺北部地域防災マップとは

この防災マップ(地図)は、皆様の世帯に平成29年3月に配布したマップです。このマップは地域の皆様と、まち歩きをして危険な箇所や、役に立つ施設等を調査したマップを基にして作成しています。この中には現在、想定している災害と役に立つ施設を表示し、可視化しています。

自然災害としては土砂災害、ため池災害(堤防がもし決壊した場合)、本津川の16年災害浸水実績、県発表の浸水想定。役に立つ施設としては、公的機関、市指定避難所7箇所、市指定緊急避難場所4箇所、コミュニティ協議会協定一時避難場所22箇所(大規模地震対応)、医療機関、AED設置場、県協定業会、神社仏閣、ガソリンスタンド、コンビニ、公衆電話、河川監視カメラの位置等を表示しています。

2.国分寺北部コミュニティ継続計画とは

国分寺北部校区での大規模災害を想定した平常時の対応、災害時の対応を取りまとめたものです。大規模災害が発生した直後は、交通網の寸断、火災の同時多発などにより、消防や警察などの防災機関が十分に対応できない可能性があります。そのときに力を発揮するのが「**地域ぐるみの協力体制**」です。私たち住民は、南海トラフ地震が発生しても最初の一週間は「私たちの地域は私たちで守る」という心構えで、地域のみんで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めます。

(1)平常時の対応

- 1)いざというときに地域の力が発揮できるよう、地域の全員が協力して防災・減災活動に取り組みます。
- 2)いざと言う時に対応できるよう、市と協議して必要なものを順次整備していきたくと思います。

(2)災害時の対応

災害時は、負傷者の発生や火災など様々な事態が発生する可能性があります。公共機関とも連携しながら、みんなで力を合わせて活動します。

(3)「災害時要配慮者」(以下「要配慮者」という)等への支援

災害時に大きな被害を受けやすいのは、一般的に災害弱者といわれている高齢者や障がい者、子ども等、人の助けを必要とする人(要配慮者)です。こうした要配慮者を災害から守るため、要配慮者マップ(以下、マップ)を作成して災害弱者の分布特性を理解しながら、みんなで協力して支援を行っていきます。

以上概略を述べました。本文は事細かく取り決めしています。今後これらはPDCAサイクルで見直しを行います。

3.国分寺北部小学校・国分寺北部コミュニティセンター連携避難所運営マニュアルとは

小学校体育館・教室とコミュニティセンターを一つの避難所として運営して行きます。想定される運営方針を事細かく決めていきます。このマニュアルを読めば避難所開設が出来るようになっていきます。

避難所開設に当たり、施設の安全確認から始まり、受付、受け入れ、運営と進んでいきます。この準備には大勢の方に協力をお願いしないと避難所の開設・運営が出来ません。今後避難所運営訓練を行いながら、不都合な箇所があれば見直し、随時修正しながら運営しやすく、また住みやすい避難所づくりを目指します。

※現在、青年センター避難所運営についてのマニュアルを作成しています。

以上、地区防災計画について、簡単に説明しました。

この3点を平成31年3月、高松市危機管理課に提出しています。

これらについて、もっと知りたい、勉強したい方はコミュニティセンターにご一報ください。お互いに勉強しましょう。

これからの課題として、防災ため池の見直しで多くの小規模ため池が対象となりました。令和2年度には浸水想定区域等が発表になります、また本津川本流についても県より1千年に一度の大雨による浸水想定等が発表になりました。これらを踏まえて全体的に地区防災計画の見直し、修正を行っていきます。

活動報告

「自主防災組織リーダー研修会」

阿部 孝雄

令和元年12月7日(土)、8日(日)の2日間、香川県消防学校及び高松国際ホテルを会場に自主防災組織のリーダー、市町防災担当者を対象とした「自主防災組織リーダー研修会」に参加しました。共助の要である自主防災組織の活動を活性化し、地域防災力を強化するために、自主防災組織のリーダーの資質の向上等を図ることを目的に42名が参加して行われました。

研修会のうち「水害・土砂災害に備えて」では、近年の気象状況の変化と行政の取り組みのほか、①浸水想定区域図や土砂災害警戒区域など、その場所の危険性を知ること。②香川県や気象庁から提供される雨や河川の水位情報、土砂災害の危険度情報などをホームページなどで情報を集めること。③市町発表の避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告などによるほか、自主的に早めに避難するなど早め早めの行動をとること。の命を守る3つの方法が示された。

「避難所運営研修(HUG)」では、8名程度のグループに分かれ、避難スペースの確保、組織づくり、要配慮者への対応、様々な出来事への対応など実際の避難所をイメージしての訓練であり、各自主防災会での避難所運営マニュアルに基づいた訓練の必要性を実感した。

「防災の輪を広げるコツ～楽しく防災活動をやろう～普段の生活に防災を取り込む【生活防災】」について、地域防災研究所の大西賞典氏の講演では、災害のための防災は長続きしない。生活防災は「人」「あいさつ」「コミュニケーション」で整備すべきライフラインはコミュニティである。多くの研修内容の中から特に記憶に残ったものを紹介して研修報告とします。

【HUG研修の風景】



編集後記

今回の自主防だよりは、昨年秋に実施された防災訓練の内容を中心にお届けしています。当日は多くの地域の皆さんに参加・体験して頂き、有意義な訓練となりました。今後、内容を検討し、より実際に生かせる訓練となるようにしていきたいと思えます。

また、地震だけでなく、近年の雨の降り方も通常では予想出来ない量になっています。特に私たちの身近には、ため池や河川がありますので、避難のタイミングや災害発生時にどうしたら避難場所まで安全に行けるか日頃家族と話し合い、避難ルートを確認しておくことが必要です。

国分寺北部校区自主防災組織連絡協議会では、今年も地域の皆さんと共に「災害に強い町づくり」を目指し、地道な活動を続けて行きますので、ご協力よろしくお願ひします。

雑学コーナー



トイレットペーパーにも表裏があることを ご存知でしょうか。

そうなんです、表裏がちゃんとあるんです。ただし、それは一枚のみのシングルロールのはなしで、二枚を重ねたダブルロールについては重ね合わせ方により、両面が表になっている場合が多いようです。

さて、トイレットペーパーの表面と裏面の違いはなにか？紙の製造工程はもちろんのこと、トイレットペーパーという特殊な使用方法も考えられ、表裏ができることになりませう。当然ですが、サラサラした手触り良い方の表面で、ザラザラした方が裏面となります。今度トイレに入られた時に確認してください。見た目は分からなくても、手で触ってみれば確認できると思います。



防災重点ため池の再選定について

高松市土地改良課HPから

【再選定の経緯】

平成30年7月豪雨により、特に中国地方を中心に多くのため池が決壊し、防災重点ため池ではない小規模なため池で甚大な被害が生じたことから、国はため池対策検討チームを設置し、防災重点ため池の選定の考え方を見直し、新たな基準を公表しました。

基準：決壊した場合の浸水区域(以下「浸水区域」)に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与える恐れのあるため池

これを踏まえ、本市は、香川県と調整を行い、本市内にある農業用ため池について、新たな基準に基づき、防災重点ため池として再選定の作業を行いました。

【防災重点ため池の数】

新たな選定基準に基づき選定された防災重点ため池の数は、本市内の農業用ため池2,930か所※のうち、1,217か所となりました。

【防災重点ため池数(令和元年5月末時点)】

国分寺町では150箇所

※再選定された防災重点ため池の一覧表は下記HPを参照
<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/jigyosha/sangyou/nogyo/bousaijuutenntameike.files/ichirannhyou.pdf>

都道府県などが対策の進み方の方針を作成した後

【今後、緊急時の迅速な避難行動につなげる対策】

○ため池マップの作成 ○緊急連絡体制の整備

○浸水想定区域図の作成

○ため池データベースの充実

○ため池防災支援システムの活用

※上記については全ての防災重点ため池で早急に実施

●ハザードマップの作成(影響度の高いため池を優先)

●水位計等による監視体制の整備

●地域防災計画等への位置付け

これらの情報が発表されたのち、国分寺北部校区でも地域防災マップ・コミュニティ継続計画・避難所マニュアルの見直し作業に入ります。

